

群馬県立富岡高等学校（定時制） 学校評価一覧表（令和5年度版）

（別紙様式）

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりを努めていますか。	1 地域の期待に応えられる学校づくりを推進していますか。	① 保護者や学校評議員の80%以上が本校定時制の教育目標や活動を理解し、賛同している。	・入学式後の説明会・三者面談等及び各種情報発信により、本校定時制の教育目標や活動内容を保護者に周知する。 ・魅力ある学校行事を計画し、生徒同士が交流しながら、お互いを高め合える機会を増やす。	A	A	A	・多くの保護者に、本校の教育目標や活動を理解していただいている。次年度に向けては、今年度作成したスクールポリシーとカリキュラムポリシーを校内で共有するとともに、保護者や学校関係者にも周知を徹底することで、本校定時制の役割を理解していただく。 ・学校を好きだと感じている生徒が多い現状ではあるが、生徒にとってより魅力的な学校生活が送れるように、学校行事や生徒会行事を工夫していく。 ・多くの保護者が学校と連携をとれていると回答してくれているが、今後もこまめに電話連絡をしたり、面談をしたりすることで今まで以上に保護者との連携を深めていく。 ・ウェブページの内容を頻繁に更新するとともに、とみてい通信を定期的に発行することで学校の情報を発信していく。	・生徒数の減少は進路の多様化の中で仕方ないと思う。生徒数に関わりなく、個に応じた指導によって、生徒の学校生活の充実を図ってほしい。 ・定時制教育は必要だと思う。引き続きその役割の重要性を周知してほしい。 ・生徒は有意義な学校生活を送れているようで、安心している。 ・教育目標や活動内容、定時制の役割の理解が保護者に浸透しており、保護者との連絡が取れていることが伺われる。
		② 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は80%以上である。		・保護者との電話連絡等を緊密に行う。 ・三者面談や家庭訪問月間等のあらゆる機会を捉えて情報交換に努める。	A	A		
	2 保護者等と連携した学校づくりを進めていますか。	③ 学校と連携して教育していると感じている保護者が80%以上である。	・富高定時制HPを随時更新したり、「とみてい通信」を定期的に発行したりすることによって情報発信を行う。	A	A	A		
	3 積極的に情報を発信していますか。	④ 学校が情報を積極的に発信していると感じている保護者が80%以上である。		A	A	A		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 基礎的・基本的な内容の定着を図っていますか。	⑤ 生徒の70%以上が授業によって基礎的な内容を身に付けることができたと感じている。	・自作プリントやICT機器活用等を工夫することによって、学習内容の定着を図る。 ・教員相互の授業研修等を通じて授業改善に努める。 ・授業の様々な場面で読書の面白さを伝えていくとともに、図書室の積極的な利用を促進する。	A	A	A	・生徒の多くが基礎的な内容は身につけていると回答しているが、中には学習に困難を抱えている生徒もいるので、少人数の利点を生かして、個々の生徒のニーズに合った授業展開によって、基礎的な内容の定着を図るための努力を継続していく。 ・読書をする習慣がない生徒や、本を読む楽しさを感じていない生徒もいるので、すべての教科・科目で、読書の効果が伝わるような場面を設定し、生徒が読書に触れる機会を作っていく。 ・授業内容に興味・関心を抱いている生徒がいる一方で、中には授業内容を理解できず、授業に関心を持っていない生徒も存在している。今後は、それぞれの教科の特性に合った方法で、授業展開や方法を工夫できるように、授業改善に向けた研修を充実させる。また、学期ごとに行っている授業評価アンケートの結果を生かして、授業の改善を継続していく。また、授業内でICTを使って個別最適な学びが促進できるように、そのための方法を共有していく。	・発達障害があると思われる生徒が、多く進学していると思うので、医療機関との連携を充実させてほしい。 ・学習に対する生徒の状況は個人差があると思う。特に学習意欲や基礎学力が低い生徒に対しての個に応じた教育が最重要課題だと思う。これからも研修を通じて、授業改善に向けた努力を続けてほしい。 ・読書に関しては、司書の先生とも連携して、読書の楽しさを実感できるように取り組んでほしい。
		5 読書活動を推進していますか。		⑥ 生徒の50%以上が、月に一冊以上の本を読んでいると回答している。	C	A		
	6 学習への興味・関心を引き出し、自発的な学習意欲の向上を図っていますか。	⑦ 生徒の授業評価で70%以上が授業の内容に興味・関心が持てると回答している。	・生徒の実態にあった教材や指導方法の工夫改善を進める。 ・ICT機器を効果的に活用する授業を展開する。 ・個々の能力や学習意欲を引き出すため、きめ細やかな学習指導を行う。	A	A	A		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 生徒の実態を早期に把握した上で適切に指導し、欠席・遅刻・早退を少なくしていますか。	⑧ 生徒の80%以上が遅刻をしないように心がけている。	・欠席の事前連絡、遅刻への注意など担任指導を徹底する。 ・遅刻が多い生徒に対して定期的、継続的に個別指導を行う。 ・登校時指導を継続的に行う。 ・保護者と緊密に連絡を取り合う。	A	A	A	・多くの生徒は欠席や遅刻をしないように心掛けているが、生活リズムの乱れや体調不良などのため、欠席や遅刻が多い生徒もいる。それぞれの生徒の実態や特徴に合わせて、学校生活に合わせて生活が送れるような支援を継続することで、欠席や遅刻を減らしていく。 ・教育相談だよりに目を通して生徒もいる一方で、あまり読んでいない生徒もいるので、口頭で内容を説明したり、生徒の興味をひくような内容にしたりする工夫をしていく。 ・多くの生徒が先生に相談しやすいと回答している。今までのような関わりを継続する一方で、なかなか相談できない生徒について、注意深く観察し、必要に応じた声掛けをしていく。 ・1学期に1年生で1件のいじめを認知したが、現在は解消に向けて支援継続中である。今後もアンケートや日々の観察を通じて、いじめをしっかりと認知し、適切に対応できる体制を作っていく。 ・多くの生徒は球技大会や文化祭、一日旅行といった学校行事を楽しんでいる。今後も楽しい学校生活を送れるように学校行事の企画、運営を工夫していく。 ・今年度は交通事故は一件もなく、交通安全を徹底できた。次年度も定期的な車輛点検を継続的に実施し、機会あるごとに、交通安全に対する意識を高めていく。	・保護者による家庭教育も課題がある生徒も多いと思うので、保護者への適切な支援と卒業後も見通した継続的な関わりを先生方にも意識してもらいたい。 ・保護者との連携を取りながら、欠席や遅刻の削減に向けてのサポートを引き続きお願いしたい。 ・生徒との信頼関係が築けていることがわかった。引き続き良好な関係を構築できるような取り組みをお願いしたい。 ・教育相談の充実などに組織的に取り組んでいることが、生徒・保護者の安心感につながっていると思う。今後とも生徒一人一人に寄り添った支援をしてもらいたい。
		9 いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていますか。		⑨ 生徒の80%以上が欠席をしないように心がけている。	C	C		
	8 教育相談体制のより一層の充実に取り組んでいますか。	⑩ 生徒の70%以上が「教育相談だより」に目を通して回答している。	・教育相談だよりをただ配布するのではなく、簡単でもよいから内容に触れながら配布するなど、教員から積極的な声かけを行う。 ・教師から積極的に声かけをして、話しやすい雰囲気を作る。	C	A	B		
	10 学校行事や特別活動等の充実を図っていますか。	⑪ 生徒の70%以上が、悩みを相談できる先生がいると回答している。	・生徒会行事や進路行事等において、生徒が充実感や楽しさを感じるような行事や活動を生徒の意見も踏まえて企画・実践していくようにする。	A	A	A		
	11 交通ルールを守らせて交通事故を防いでいますか。	⑫ いじめの防止や早期発見に努め、いじめの件数が0件、または解消率が100%である。	・車輛点検や交通安全教室を計画的に実施するなどして、安全教育の徹底を図る。 ・命の大切さを機会あるごとに考えさせる。	A	A	A		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	12 働くことの意義を理解させ、好ましい職業観を育てていますか。	⑬ 学校行事や特別活動等が充実していると感じている生徒の割合が70%以上である。	・ハローワーク等と連携し就労を積極的に勧めるとともに、個別指導を丁寧に行う。 ・進路講演会等の進路行事を年間通して計画的に設定する。	A	A	A	・外部講師による講演会やキャリア教育についての授業の実践などにより、多くの生徒がキャリア意識を向上させることができた。次年度も同様の取り組みを継続させることで、キャリア意識の向上に努める。 ・個々の生徒の状況に応じた就職、進学指導を行った結果、多くの生徒は満足して進路先を決定することができた。次年度以降も個別対応に重点を置いた進路指導を行っていく。	・次年度より夜間中学校も開設され、定時制のあり方も見直される時期と思う。個に応じた進路指導、生き方指導に尽力してほしい。 ・社会が急激に変化している現在、職業観や生き方も変化している。これからの社会の変化も視野に入れて、生徒の進路指導や支援をしてほしい。
		13 きめの細かい進路指導で、生徒の適性にあった就職・進学ができるようにしていますか。		⑭ 学校事故ゼロをめざして、すべての生徒が交通事故にあわないように学校全体で取り組んでいる。	・面談を重視した個別指導を行うことで、進路意識の確立を図る。 ・低学年のうちから卒業後の自分を意識させて学校生活に取り組ませる。	A		
V 教育のデジタル化に努めていますか。	14 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑮ 生徒の80%以上が進路講演会や適性検査などの進路行事がしっかりと行われていると感じている。	・情報担当の教員を中心として、パソコンの活用法や授業実践例などを職員間で共有するようにする。	B	A	A	・D X化の流れはさらに高まっていくことが予想されるので、生徒一人一人がICTを活用することで、情報を処理する能力が高まることを支援していきたい。まずは、授業や学校行事で一人一台端末を使用する機会を増やしていく。	・時代のニーズが急速なので、しっかりと対応してほしい ・次年度の課題にありますように、一人一台端末の活用をぜひ実現してください。